

令和4年度 学校法人盛岡学園みなみ幼稚園 教諭自己評価

対象 教諭10名 経験年数 4年～30年（平均16.1年）

	評価項目	自己評価 %			
		A	B	C	D
I	保育の計画性				
1	園の教育理念・教育方針の理解	30	60	10	0
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解	20	60	20	0
3	教育課程の編成と評価	30	70	0	0
4	指導計画の作成	56	44	0	0
5	環境の構成	10	80	10	0
6	保育と計画の評価・反省	10	80	10	0
<p style="text-align: center;">上記項目の自己評価に対する課題と思われること</p> <p>◎幼稚園教育要領を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができること。</p> <p>◎環境構成及び活動の展開に応じて環境の再構成をすること。</p> <p>◎自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行うこと。</p>					
II	保育のあり方、幼児への対応				
1	健康と安全への配慮	100	0	0	0
2	幼児のみとりと理解	20	70	10	0
3	指導とかかわり [心のよりどころとして]	80	20	0	0
4	〃 [遊び・活動の援助者として]	30	70	0	0
5	保育者同士の協力・連携	50	50	0	0
<p>◎幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけ、話をよく聞くようにすること。</p> <p>◎幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供すること。</p> <p>◎禁止・命令・行動を急がせるなど、自信を失わせることばや態度をできるだけ控えること。</p> <p>◎幼児の家庭環境や、これまでの生育歴などを考慮してかかわること。</p> <p>◎不適切と思われる言動を、互いに指摘し合える関係性をもつこと。</p>					
III	保育者としての資質や能力・良識・適正				
1	専門家としての能力・良識・義務 [専門家としての能力]	20	80	0	0
2	〃 [良識とマナー]	80	20	0	0
3	〃 [義務]	70	30	0	0
4	組織の一員としての在り方	40	60	0	0
5	まわりを感じ取れる感性・アンテナ	10	80	10	0
<p>◎保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけること。</p> <p>◎保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができること。</p> <p>◎他の意見を素直な気持ちで聞いて、自分の意見を述べること。</p> <p>◎幼児の教育・保育に関する情報を日頃から得ようとする事。</p> <p>◎社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にすること。</p>					

	評価項目	自己評価 %			
		A	B	C	D
IV	保護者への対応・守秘義務				
1	情報の発信と受信	20	80	0	0
2	協力と支援	80	20	0	0
3	守秘義務の遵守	90	10	0	0
4	対応上のマナー・良識	30	70	0	0
5	クレームへの対応の仕方	90	10	0	0
<p>上記項目の自己評価に対する課題と思われること</p> <p>◎一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握すること。</p> <p>◎保護者への伝え方（言葉の選択や表現の仕方）や伝える手段など内容や相手に応じて吟味すること。</p> <p>◎親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしないこと。</p>					
V	地域の自然や社会とのかかわり				
1	地域の自然・人々とのかかわり	30	70	0	0
2	小学校との連携・接続	0	90	10	0
3	地域の特徴を生かした保育の展開	10	70	20	0
<p>◎実習生や中高生の保育体験などを受け入れるとき、意義や方針を理解し接すること。</p> <p>◎小学校の教育内容について理解するよう努めること。</p> <p>◎小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するように努めること。</p> <p>◎地域の気候を生かした保育を実践すること。</p>					
VI	保育の専門性に関する研修・研究への意欲・態度				
1	研修・研究への意欲・態度	0	90	10	0
2	遊具・教材に関する専門性の向上	40	60	0	0
3	園内の環境に関する専門性の向上	0	70	30	0
4	今日的課題に関する専門性の向上	50	50	0	0
5	自ら高めるための学習	40	40	20	0
<p>◎研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認し自分なりの考えをまとめること。</p> <p>◎自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて話し合うこと。</p> <p>◎園舎の構造や保育室・体育館などの位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解すること。</p> <p>◎園庭や砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かすこと。</p> <p>◎保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心をもつこと。</p>					